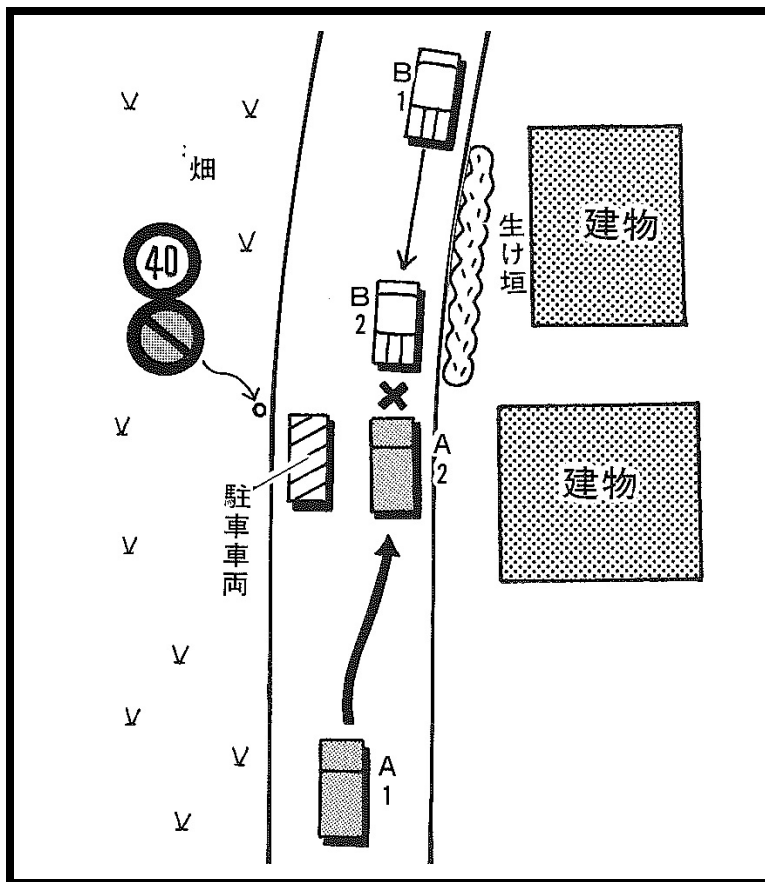


■事故の概況



事故類型：正面衝突
発生日時：昼間
当事者A：軽貨物車
60歳代
男性
当事者B：普通乗用車
30歳代
男性

■ 事故の概要

Aは助手席に妻を同乗させて、交通の閑散とした緩やかな右カーブの、幅員6mの道路を時速約30kmで走行していました。事故を起こさないから、家が近くだからなどの理由で、Aも同乗者もシートベルトを着用していませんでした。

道路左側に駐車車両を確認し、その右側を通り抜けようと進路を変更したところ、時速約50kmで対向してきたB車を発見し、急ブレーキをかけたが間に合わず、正面衝突しました。

■ 事故から学ぶ

Aは事故当時、交通量が少ないため、駐車車両を避けて走行することだけを考えていたので、対向車の発見が遅れてしまいました。駐車車両を避けて道路中央に出るときは、つねに対向車や歩行者がいるかもしれないという危険を予測し、徐行または一時停止をするなどをして、前方の安全を確認しましょう。

Bも危険を予測しながら、十分な減速を怠ったため、衝突を回避できませんでした。センターラインを越えてきそうな対向車がうかがえるときは、後続車の状況や、路肩、側溝などの状況を確認したうえで、速度を落として回避行動を準備するとともに、警音器を鳴らすなどをして、対向車に注意喚起をしましょう。

さらに、走行距離が短くて通い慣れた道であっても、必ずシートベルトを着用しましょう。